

献血後、転倒し死亡

30代男性 トイレで頭打つ

日本赤十字社は7日、東京都立川市内の献血ルームに来た30歳の男性が、採血直後にトイレで倒れ、頭を打って亡くなったと発表した。転倒した理由ははっきりしていないものの、日赤は献血後に急激な血圧低下などがみられる血管迷走神経反応(VVR)を起した可能性もあるとしている。

日赤によると、男性は9月26日午前、都内のビ

朝日新聞 39

ルの一室にある献血ルームで成分献血をした。採血の後、休憩し、同じ階にあるトイレに行ったが、間もなく一般の人からの通報で職員がトイレ

で倒れている男性を発見したという。男性は病院に運ばれ、頭部の手術を受けて入院していたが、今月6日に亡くなった。VVRは採血に伴う反

応で、採血開始後の5分以内に発生することが多い。気分が悪くなったり血圧低下などが起きたりする。日赤によると、04年度には採血後にVVRを起し入院・通院した事例は198件。東京都町田市で01年8月、60歳の男性が駅のホームで転倒し、頭を打って死亡したケースがあるという。

読売新聞 39

献血直後に転倒 頭打ち10日後死亡

東京都立川市内で献血をした男性が、直後に転倒して頭を打ち、死亡していたことが7日分かった。日本赤十字社は、献血後めまいや血圧低下、脈拍数低下などの症状が出る「血管迷走神経反応(VVR)」が原因の可能性があるとみて、全国の血液センターに注意を呼びかけることとしている。

立川署の調べによると、死亡したのは東京都青梅市のアルバイト男性(37)。9月26日午前、成分献血で424ミリ・リットルを採血した直後にトイレで転倒、10月6日に脳挫傷などで死亡した。VVRは献血後にまれに見られ、心理的不安、緊張、採血に伴う神経生理学的反応が原因と考えられている。採血後5分以内に発生することが多いという。

毎日新聞 31

献血後に倒れ 30代男性死亡

都内頭強打

日本赤十字社は7日、30代の男性が献血直後に倒れて頭部を強打したことが原因で死亡したと発表した。献血でめまいや気分が悪くなる血管迷走神経反応(VVR)を起した可能性があり、日赤は再発防止のため、発生原因や対応策を探る検討会を今月中にも設置する。日赤によると、男性は先月26日、東京都内の献血ルームで成分献血をした。採血後、ビル内のトイレに行ったが、数分後、倒れているのを通行人が見つけ、救急搬送されて緊急手術を受けたが、今月6日に死亡した。

日赤の調べでは、採血による副作用被害は献血者全体の約1%で、昨年度は約540万人の献血者のうち、0.8%の人にVVR被害があった。【玉木達也】